

## 平成27年度第2回池田市発達支援システム検討委員会次第

と き：平成28年3月24日（木）  
午前10時～12時  
ところ：市役所5階 大会議室

### 案 件

- (1) 正副委員長の選出について
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- (2) 27年度の取り組みについて
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- (3) 28年度の取り組みについて
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- (4) 大阪府における発達支援に関する取り組みについて
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- (5) 各委員からの案件について（意見交換）
  
  
  
  
  
  
  
  
  
  
- (6) その他

## 27年度の主な取り組みについて

### ■いけだつながりシート Ikeda\_s（イケダス）について

（配布場所）

発達支援課、健康増進課、障がい福祉課、教育センター

（配布状況）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計
43部	37部	29部	28部	23部	37部	44部	52部	26部	20部	34部	373部
累計	80部	109部	137部	160部	197部	241部	293部	319部	339部	373部	

※25年度は225部、26年度は355部。

（周知方法）

- ・子育て情報誌『まみたん』への掲載（27年5月号）やポスターの掲示
- ・講習会や研修会、市民健康フォーラムなどで紹介



### ■かおテレビについて

（実施場所）

保健福祉総合センター（1歳半健診、概ね月2回）、発達支援課（要予約）

（実施状況）28年2月末現在

137人（1歳半健診）、21人（健診以外） ※26年度は136人。

※大阪府の「発達障がい児早期気づき支援事業」のモデル事業として、泉大津市や守口市、貝塚市、河南町、千早赤阪村でも実施。

（周知方法）

- ・広報いけだへの掲載（27年4月号）やポスターの掲示
- ・市民健康フォーラムなどで紹介



## ■池田市発達支援 Map について

子育てで困ったときやお子さんの発達について心配なとき、利用できる施設・サービスが分からないときなどに、どこに相談したらいいのかが分かりやすくまとめた冊子（A4版カラー28ページ）を7月末に3,000部発行。

（配布場所）

市役所1階ロビー、発達支援課、健康増進課、  
石橋プラザ

（配布状況）28年2月末現在

約1,500部



## ■障がい児通所支援事業について

		24年度 実績	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績 (見込み)	28年度 予算 (参考)
①児童発達 支援	施設数	7カ所	9カ所	12カ所	15カ所	18カ所
	延べ人数	346人	556人	633人	786人	864人
	給付金額	60,577千円	60,290千円	62,579千円	66,031千円	72,634千円
②医療型児童 発達支援	施設数	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所
	延べ人数	91人	93人	94人	104人	114人
	給付金額	4,746千円	3,236千円	1,993千円	1,937千円	2,130千円
③放課後等 デイサービス	施設数	1カ所	13カ所	22カ所	36カ所	43カ所
	延べ人数	1人	391人	772人	1,115人	1,228人
	給付金額	11千円	18,147千円	43,739千円	75,831千円	91,309千円
④保育所等 訪問支援	施設数	1カ所	2カ所	2カ所	1カ所	2カ所
	延べ人数	2人	9人	20人	12人	14人
	給付金額	19千円	85千円	193千円	106千円	116千円
給付金額合計		65,354千円	81,759千円	108,504千円	143,905千円	166,189千円

### 【参考】府内近隣市の通所支援施設数について

	池田市	豊中市	箕面市	吹田市	茨木市	高槻市	摂津市	合計
27年	6	22	11	19	22	23	10	113
28年	10	28	14	29	25	28	11	145

※いずれも各年3月1日現在。児童発達支援センターを含む

## 市議会での質疑応答について

### ■28年3月議会（代表質問）＝28年3月4日＝

（議員） 発達障がいは、本人、支援者、社会が理解することによって円滑な社会生活ができると言われていています。その大きなツールが「いけだつながりシート」だと思います。このシートの現状及び課題、そして今後の展開についてお聞かせください。

（市長） 「いけだつながりシート」は、発達障がいをはじめ、障がいの有無や年齢などに関わらず、全市民を対象にしたものであり、本市における発達支援システムの推進にとって、重要なツールであるものと認識しています。

平成24年度末の完成以降、関係部局の窓口をはじめ、1歳半健診実施時など、3年間で約1,000部を配布しています。

今後はこの3年間の利用状況などについて検証するとともに、電子化を進めることにより、利便性の向上を図り、さらなる利用者の確保と関係機関での活用を促進し、発達支援システムの確立に邁進してまいります。

### ■28年3月議会（厚生委員会）＝28年3月10日＝

（議員） 「いけだつながりシート」の活用により、成長の記録を残して後追いをしていくことは非常に意義があると思いますが、どの程度市民の方に渡っていますか。また、どのような場面で活用されていますか。

（発達支援課長） 過日の代表質問で市長が答弁したとおり、平成24年度の完成以降、3年間で約1,000部を配布しています。活用状況については、関係機関などに照会をしており、今後はそれらの検証も踏まえながら、電子化を進めることにより、利便性の向上を図り、さらなる利用者の確保と関係機関での活用を促進し、発達支援システムの確立を推進してまいります。

（議員） 「かおテレビ」の取り組みについて。どの程度の方が研究に協力されていますか。また、どの位のデータが集まれば効果の測定ができるものなのでしょうか。

（発達支援課長） 主に1歳半健診時に協力いただいております。昨年度は100

人程度でしたが、今年度は2月末で137人でおおよそ1.5倍になる見込みです。また、研究委託している大阪大学からは、研究成果がある程度まとまってきたようにも聞いていますので、適当な時期に公表できればと考えています。

## 【参考】

### ■26年度決算委員会（厚生委員会）＝27年10月15日＝

（議員） 障がい児の通所給付費について、前年度に比較して約2,500万円以上増加していますが、この増加の要因をどのように考えますか。

（発達支援課長） 給付費の受給に必要な受給者証の発行は150～170人で推移しており、大きな変化はありませんが、利用者の延べ人数が前年度約1,000人に対して、26年度は約1,500人と1.5倍に延びています。これは、必要な方に必要なサービスを提供した結果であり、増加の要因につながっているものと考えます。

（議員） 「かおテレビ」など、先進的な取り組みを大阪大学と連携していることと思いますが、なかなか見えてこない部分があるように思います。そのあたりも含め、今後の発達支援に対する取り組みの展開をどのように考えていますか。

（発達支援課長） 形の見えるものとして、今年度（27年度）にはなりますが「池田市発達支援 Map」を作成しました。また、発達支援システムのためのツールとして、「いけだつながりシート」が完成したことから、今後もその活用を促進してまいります。

（議員） 障がい児の通所支援事業について、利用者の延べ人数は分かりますが、どれくらいの施設に支払っているのですか。また、施設に通所するためのバスなどはありますか。

（発達支援課主幹） 施設については、市内4施設をはじめ、近隣市などにある施設延べ37施設に支出しています。通所について、原則は保護者が送迎するものですが、送迎サービスを行っている施設もあるようです。

## 28年度の予算概要について

## ■発達支援課予算について

事業名	28年度予算額	27年度予算額	増減
発達支援システム推進事業	8,123,000円	3,531,000円	4,592,000円 (委託料など)
就学前児発達支援事業	407,000円	431,000円	▲24,000円 (講師報酬金など)
障がい児通所支援事業	170,864,000円	155,786,000円	15,078,000円 (扶助費)

## イケダス電子化事業

池田市

総額345億円（前年度比6.6%減）。乳幼児期から成人期までの発達の詳細なデータをスマートフォンなどで記録できる「いけだつながりシート」（イケダス）の電子化にかかる事業費として500万円を計上した。

主な事業は①習熟度別指導の実施など各市立小中学校のニーズに応じて、教員や専門家を派遣する事業（3400万円）②訪日外国人（インバウンド）誘致のための調査事業（50万円）。

▲読売新聞（平成28年3月23日、朝刊）

## ◆ 子育て ◆

# お子さんの成長記録はスマホでどうぞ

## ～いけだつながりシート Ikeda\_s を電子化～

乳幼児期から成人期まで、切れ目のない適正で効果的な支援を行うことのできる発達支援システムを実現するには、専門的な見地からのアプローチが不可欠であることから、同システム充実のための研究やコンサルテーションなどを大阪大学に委託するとともに、発達や成長を記録するツールである『いけだつながりシート Ikeda\_s (イケダス)』の電子化を進める。

池田市では発達支援システム構築のために研究・検討を重ね、そのツールとしてイケダスが24年度末に完成した。本ツールは単に発達障がいを含む、支援が必要な子どもたちだけのものではなく、母子健康手帳の延長版として誰もが使える「生涯手帳」。記録することにより、保護者をはじめ、子どもを取り巻く方々がそれぞれのもつ強みや弱みなどを客観的に理解し、情報共有することができる。

### 内 容

- ・ 25～27年度の3年間で、約1,000部を配布してきたが、さらなる利用者の確保と関係機関での活用を推進する必要がある
- ・ 電子化することにより、「いつでも・どこでも利用可能」「誕生から成人・高齢期までの個人専用サイトを提供」などのメリットを考えている



いけだつながりシート Ikeda\_s (右)  
と母子健康手帳

### 実施時期

- ・ 4月下旬～5月中旬（試行的にスタート）

### 予算額

750万円

500万円：イケダスの電子化にかかる費用

250万円：かおテレビ（注視点検出装置）の研究や発達相談、研修会や講演会の開催などにかかる費用

※財源には大阪府の新子育て支援交付金（優先配分枠）を充てる予定。

### そ の 他

- ・ 府内でイケダスのようなツールを作成しているのは、本市を含め19市町村（26年度末現在）あるが、全市民を対象にしているのは本市のみ（本市以外は福祉分野に特化）

問い合わせ 発達支援課 TEL072・754・6102

## 「いけだつながりシート Ikeda\_s」利用状況調査（まとめ）

※調査票回収数：13通

質問1) 窓口などでの対応で、「いけだつながりシート Ikeda\_s（以下、イケダス）」を使用したことがありますか。

はい（5人）→ 質問2)へ

いいえ（8人）→ 質問4)へ

質問2) イケダスを使用したのは、どのようなときですか。また、同様のケースがあった場合は、件数も合わせてご記入ください。

イケダスを使用した内容	件数
公私立保育所・認定こども園の障がい児保育枠での入所申請受付時、イケダスの紹介と発達支援課への登録案内を行う。また、該当ページをコピーし、項目に従って児童の聞き取りを行う	24件
児童発達支援・放課後等デイサービス事業（キッズクラブ・きらきらクラブ）の利用開始時点での現状までの発達状況確認において	10件
発達検査結果の記入	3件
障がい児通所支援の新規申請	2件
就学相談	1件
イケダスの紹介、お勧め、配布	件

質問3) イケダスを使用した際、便利だと思われましたか。不便だと思われましたか。また、そう思われた理由をご記入ください。 ※次は質問5)へ。

便利だと感じた（4人）

- ・項目が具体的なため、保護者の記載も具体的になりやすい
- ・児童の聞き取りが行いやすい（児童のことを理解しやすかった）
- ・診断名・病名、病院名などを転記する際、間違いが少ない
- ・項目が多岐にわたるので、合うところを選択して使うことが可能
- ・（通所支援の新規申請時に）調査票を書く際の参考にすることができた

不便だと感じた（1人）

- ・職員がうまく認識、利用できていない現状がある
- ・コピーする負担がある



質問4) 使用したことがないのは何故ですか。

- 配布したことはあるが、窓口相談時にシートを持参されなかった
- 支援機関ではないので、活用する機会があまりない
- 必要な場面に遭遇していないから
- 独自のフェイスシートを活用しているため
- 窓口には様々なケースで相談等に来られた際に、使用できれば便利だとは思われるが、すべての方に持参していただくのは難しいと感じている
- 発達障がいであることをクローズして、利用される方が多いため
- ハローワークを利用される方は、働ける状態の方や一人で外出が可能な方なので、利用するには至らなかった
- 重症心身障がい児等は日々の変化が大きく、その時々に必要な対応になるため、イケダスの紹介までに至らない

質問5) 使用したことがある方、ない方にかかわらず、あなたの職場でイケダスが活用できるとされる事例を挙げてください。

1	療育手帳更新時や福祉サービス申請（利用）時の聞取りに活用できる。
2	保育所等の入所申請時に、母子手帳の拡大版として、掲示や口頭で周知を行う。
3	保育所等で児童の個別支援計画（障がい児保育）を立てるときに使用する。
4	就学するとき、何らかの形で活用する。
5	児童発達支援、放課後等デイサービス事業（キッズクラブ・きらきらクラブ）の利用児の発達状況の把握と個別支援計画作成のための資料として。
6	やまばと学園週5通園、週2通園、週1通園児の発達状況の把握と個別支援計画作成のための資料として。
7	やまばと学園の週5通園、週2通園、週1通園児、児童発達支援、放課後等デイサービス事業（キッズクラブ・きらきらクラブ）の利用児の次の機関への引継ぎ資料として。
8	健診歴等を振り返って確認されたいときに、お手伝いができると思う。
9	既に他部署で把握されているケースに新たに関わることになった場合、イケダスにデータがまとめられていれば過去の生育歴等を問診する必要がなくなる。
10	幼稚園において、就園前における、その子の育ちの状況がよく分かる。イケダスを囲んで、保護者の方と話をしながら共通理解を深めることができ、指導計画を立てる際に役立つ。
11	小中学校において、就学前における、その子の状況（得意な点、苦手な点など）がよく分かる。イケダスを囲んで、保護者の方と話をしながら共通理解を深めることができ、指導計画を立てる際に役立つ。

12	個別の教育支援計画、個別の指導計画を挟んで保存し、成長の過程を確認することができる。
13	発達検査の結果などを挟んで保存し、経過を見ることができる。
14	中学校や高等学校等、進学の際にも保護者が進学先と相談するための資料として、使用できる。
15	今まで独自のフェイスシートを活用していたが、年度当初の利用者さんのフェイスシートとして活用したい。
16	OT・PT訓練の申請手続きにおける活用（現在、作成中）。
17	子どもの発達を記録しておくものとして。現在、問題はなくても、記録しておくことで役立つ場合が生じるケースもある。
18	医療機関受診の際に発達検査等のこれまでの結果をまとめておいて持って行ってもらうことができる。
19	受給者証発行時の聞き取りが、ポイントを絞ることによって短縮できるようになるのではと思う。
20	受給者証の申請時に、保護者の方に調査票を記入していただくとともに、勘案事項整理票に基づき聞き取りを行っているが、イケダスを活用することで、資料として役立つ。
21	手当関係の相談に来られた際に、イケダスを参考資料とし、より具体的な説明ができる。
22	高度医療児で就園が決定したケース。医療的ケアの状態や就園先での注意点、関わり方のポイント等が伝えられると考えられる。
23	小児慢性特定疾病児で発育発達への支援が必要なケース。地域への就園が決定した段階で利用していく。
24	対象児だけではなく、家族全員への支援が必要なケース。児童の経過や状態について、支援者が聞き取りを行うことで、長期的に正確な情報を残すことができると考えられる。
25	通所支援の支給決定の聞き取りの際に、イケダスのように子どもの状態が分かる資料があれば、それを元に話が聞けるので、より聞き取りの質が上がると思う。
26	通所支援のセルフプラン作成時に悩まれる保護者の方が多いので、イケダスを参考に子どもの課題を見つけ、保護者の方と話しながら、記載することが可能であると思う。また、通所支援の調査票を書く際に、イケダスの「現在の様子」の「身辺自立」は参考にできると思う。

質問6) イケダスについて、意見や何か改善すべきだと思ふ点があれば、ご記入ください。

<課題>

- ・周知の仕方、ライフステージに応じた活用の仕方、保護者と関係機関の連携の持ち方等については今後の課題と思われる。
- ・とにかく池田市の全ての機関がイケダスを利用する仕組みづくり
- ・就学相談の際、「イケダスはお持ちですか?」とお聞きしても、保護者からは「持っているが記入していない」とのお返事が多かった。記入しやすい工夫と、就園就学相談時に持参いただくよう啓発が必要だと感じた。
- ・母子健康手帳の延長版という説明をすると、実際の大きさに驚かれるケースが多い。いつでもどこでも利用されたいという意味で、今後の電子化が期待される。

<要望>

- ・イケダスの読み取り方や活用の仕方に関する研修会を開催してほしい(うまく活用している部署等の実践報告も含めて)。
- ・上手く活用されている事例について、教えていただきたいです。
- ・保護者等の質問にメールで答えたりできればよいと思う。
- ・イケダスを渡すタイミング。乳児期等、今後の発達発育が望まれる時期や療育へ結びつかない時期には渡しにくい。就園、就学時に渡すということではよいのか迷います。

<質問>

- ・電子化するという事は、管理を保護者から行政に移行するという事になるのか。

<その他>

- ・発達面で何らかの支援を受けている児の活用、また就学後、必要な児への活用に力を入れるべきではと思います。
- ・インターネットでの情報提供が可能であるなら、現在において必要性は大きい。

質問7) あなたの職場で、イケダスの説明ができる方は何人いらっしゃいますか。

延べ45人(平均3人)

※0~1人:4人、2~3人:3人、4~5人:3人、6人以上:2人、無回答:1人

質問8) イケダスに関する説明を、あらためて聞きたいですか。

はい(2人)

- ・支援学級担任者会(15人程度)、指導主事(6人程度)を対象に希望。
- ・職員を対象に希望。

いいえ(9人)

- ・依頼したいところですが、とりあえず自分たちで職員向けに説明したいと思います。

無回答(2人)

**参 考**

返信先：池田市発達支援課 武田あて  
 電話：072-754-6102（直通）  
 FAX：072-752-9785  
 E-mail：h-shien@city.ikeda.osaka.jp

団体名	
担当課	
担当者名	
電 話	
メ ー ル	

2月19日（金）までにご回答願います

「いけだつながりシート Ikeda\_s」利用状況調査調査票

質問1) 窓口などでの対応で、「いけだつながりシート Ikeda\_s（以下、イケダス）」を使用したことがありますか。カッコ内に「O」を入れてください。

- はい（      ） → 質問2)へ
- いいえ（    ） → 質問4)へ

質問2) イケダスを使用したのは、どのようなときですか。また、同様のケースがあった場合は、件数も合わせてご記入ください。

イケダスを使用した内容	件 数
	件
	件
	件

質問3) イケダスを使用した際、便利だと思われましたか。不便だと思われましたか。当てはまるものに「O」を入れてください。また、そう思われた理由をご記入ください。

- 便利だと感じた（      ）
  - 不便だと感じた（      ）
  - 特に何も感じなかった（    ）
- (
 

【理由】

 )

※次は質問5)へ。

質問4) 使用したことがないのは何故ですか。

(
 

【理由】

 )

質問5) 使用したことがある方、ない方にかかわらず、あなたの職場でイケダスが活用できると思われる事例を、できるだけ詳しく、たくさん(3件以上)挙げてください。

1	(例) 就学前における、その子の状況(得意な点、苦手な点など)がよく分かった。また、少し分かりにくいところがあっても、保護者の方と話をしながら記載したので、共通理解を深めることができ、指導計画を立てる際に役に立った。
2	
3	
4	
5	

質問6) イケダスについて、意見や何か改善すべきだと思う点があれば、ご記入ください。

( )

質問7) あなたの職場で、イケダスの説明ができる方は何人いらっしゃいますか。

( ) 人

質問8) イケダスに関する説明を、あらためて聞きたいですか。カッコ内に「○」を入れてください。

はい( ) →  
いいえ( )

【具体的な希望をお書きください】

(例) 4月中旬～下旬に職員(5人程度)を対象に希望

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

池 発 達 発 第 5 3 号  
平成28年2月10日

関係者各位

池田市子ども・健康部  
発達支援課長 武田克彦

「いけだつながりシート Ikeda\_s」利用状況調査について（依頼）

いつもお世話になり、誠にありがとうございます。

さて、皆様の多大なご協力をいただきながら、平成24年度に完成いたしました「いけだつながりシート Ikeda\_s」も、お陰様で運用開始から間もなく丸3年になろうとしています。この3年間におきまして、さまざまな場面でご協力をいただいておりますこと、あらためてお礼申し上げます。

当課では現在、同シートの電子化を検討しているところですが、合わせて現状についても把握し、さらなる活用を図るための検討も進めていきたいと考えています。

つきましては、本調査の趣旨をご理解頂き、別紙のとおり利用状況調査へのご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、何かとお忙しいところ恐縮ですが、調査票は平成28年2月19日（金）までに当課に提出いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

※提出方法は、紙媒体でも電子媒体でも結構です。電子データが必要な方は、お手数ですが下記までメールでご連絡ください。

※これまでの経緯につきましては、別紙をご参照ください。

問合せ先

〒563-8666（住所不要）

池田市子ども・健康部発達支援課 武田克彦

TEL：072-754-6102（直通）

072-752-1111（内線560）

FAX：072-752-9785

E-mail：h-shien@city.ikeda.osaka.jp

## 「いけだつながりシート Ikeda\_s」作成・運用の経緯について

### 【平成21年度】

- ・療育相談システム会議（現発達支援システム検討委員会）において、システム構築に向けた取り組みを開始

### 【平成22年度】

- ・同会議で「系統だったシステムがないため、その都度対応が異なることがある（関係機関）」「相談・支援機関が変わるたび、成育歴など同じことを聞かれるので精神的に負担が大きい（保護者）」などの問題点が指摘された
- ・これらの問題点を踏まえ、生涯にわたって一貫した支援を受けられるよう、市内全域で各機関が共通して使用できるシートの必要性が確認された

**※療育相談システム会議で「必ず各機関で使用する」とを合意。**

### 【平成23年度】

- ・発達支援に関わる心理士の会で検討を重ね、「いけだつながりシート Ikeda\_s」原案を作成

**※療育相談システム会議で「対象は全市民であり、将来的には電子化を目指すこと」を合意。**

### 【平成24年度】

- ・発達支援機関と養育者からの意見を収集し、発達支援に関わる心理士の会で協議を重ねた後、発達支援システム検討委員会での協議を経て「Ikeda\_s」が完成

**※発達支援システム検討委員会で「必ず各機関で使用する」とを再確認。**

### 【平成25年度】

- ・4月から発達支援課、障がい福祉課、教育センターで配布開始

### 【平成26年度】

- ・上記3カ所に加え、11月から健康増進課、翌3月から池田子ども家庭センターでも配布開始

#### 【療育相談システム会議（発達支援システム検討委員会）参加機関】

池田市：障がい福祉課、健康増進課、子育て支援課、幼児保育課（保育課）、やまばと学園、休日急病診療所

池田市教育委員会：教育センター（教育研究所）、石橋小学校

大阪府：池田保健所、池田子ども家庭センター

国：池田公共職業安定所

その他：障がい者地域生活支援センター「あおぞら」、くすのき学園

保護者：池田市手をつなぐ親の会、池田市身体不自由児（者）父母の会

学識：大阪大学、一般社団法人子どもの発達科学研究所

「いけだつながりシート Ikeda\_s」 利用状況調査 依頼先一覧

【池田市】

福祉部障がい福祉課  
子ども・健康部子育て支援課  
    幼児保育課  
    やまばと学園  
    健康増進課  
    休日急病診療所  
    （発達支援課）  
教育委員会教育部教育センター

【大阪府】

池田保健所  
池田子ども家庭センター  
豊中支援学校  
箕面支援学校

【国】

池田公共職業安定所

【その他】

障がい者地域生活支援センター「あおぞら」  
くすのき学園